AIによる「ゼロイチ発明」の現在地と知財・経営戦略

AIと人間の協働による未知の技術的解決策の到達点を整理し、産業応用における検証の重要性と企業の戦略的対応を示す。

AIによる「ゼロイチ発明」の3段階と現在地

未知の解決策創出はすでに実現



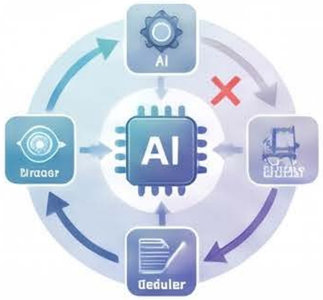
人間が設定した課題に対し、AIが既知でない解決策を提案する段階に到達。

技術的価値の実証は協働で進行



計算や実験を通じた有用性確認は、人間とAIの協働により進展している。

完全自律型の課題発見・実用化は未達



AIが自ら課題を見つけ、発想から実用化まで一貫して自律遂行する段階には未到達。

段階	ゼロイチの意味	現時点の評価
① 未知の解決策の創出	人間が設定した課題に対し非自明な解決策を提案	限定領域で既に実例あり
② 技術的価値の実証	提案が実験・計算で機能し有用性を確認	人間との協働で進んでいる
③ 完全自律化	課題発見から発想・検証・実用化まで一貫遂行	今回の成果では未実証

産業応用の鍵「検証」と企業知財戦略

成果を左右する高速検証ループ

数学やソフトウェアなど結果を高速・明確に判定できる分野ほど進展が早い。

実験系分野では検証速度が制約

材料・化学等では物理実験が必要なため、AIの提案量に検証が追いつくかが鍵。

完全自律を待たず業務を再設計

人間が課題設定と検証を担い、AIの提案を迅速に権利化・実用化へ繋げる体制構築が必要。



Gemini Notebook